



問 どうなる？サニー跡地

答 商工会とも連携を図り出店要請に務める

**問** サニー跡地はまだそのまま。周辺の人々、特にお年寄りには、店が閉店し不便を感じている。町としての考えを問う

町長

サニー閉店後の対応について、何とかならないのかとのご意見をいただいております。小売店が空洞化し、高齢者の買い物対策やまち中心部における景観の悪化等を変え危惧している。

親会社であるウォルマートの役員、担当者の方々に、存続を強く要望したが、本部の既定方針で、所有地を売却する計画であるとの回答を受け、生鮮小売業を中心に検討されるよう、強く要望した。

ウォルマートより、跡地の利用・開発については鋭意努力しているので、静観いただきたい旨の連絡もあり、推移を見守っている。

数社から出店の話が来ていると聞いているが、地権者の方々の意見の相違もあり、具体的な出店計画には至っていないとのこと。

市場環境が激変する中で、相手もあることで、地権者がそれぞれに思惑を持っておられ、行政が直接的に関与できるものではないと考えている。



サニー跡地



町づくりという観点から大きな影響も出る。引き続き、商工会とも連携をとり、出店要請や不動産情報の提供等に鋭意努めてまいります。

**問** ミドリガメの駆除について、『環境省地方創生プロジェクトの一つとして、「取り戻そう、日本の生き物プロジェクト」外来種・入れない、捨てない、拡げない』を展開しているところ

です。今般、自然的、社会的状況から対策が困難であった「アカミミガメ（通称ミドリガメ）」について、今後の目指す方向やその駆除実現に向けた「アカミミガメ対策推進プロジェクト」を公表しました。」

モデル事業に参画する考えはないか。

企画課長

環境省によるアカミミガメ対策推進プロジェクトは、「アカミミガメによる生態系等への悪影響のない社会を実現するため、国、自治体、民間団体、国民一人一人等が責任を持ち、協力、役割分担のもとで防除等を進めることが必要」とした上で、調査計画プロジェクト、3原則プロジェクト、規制検討プロジェクト及び防除プロジェクト4つのプロジェクトを進め、実現を目指すとのこと。

環境省としては、モデル事業の公募は行う予定はないとのこと。環境省には、協力でき



ミドリガメの子ども

る体制がある旨を伝えたい。

捕獲したミドリガメを、買い取る等の制度を作り、駆除の推進を検討しているが、処分方法がネックになっている。堀の生態系を保全するとともに、水生植物による良好な景観の形成を図るなど、堀の魅力を高めていくためには、駆除は必要不可欠。

他の駆除事例も参考にし、対策に取り組んでいく。